

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第69号

2013年10月3日

<http://www.australianstudies.jp/>

「第24回全国研究大会を終えて」

第8期代表理事 有満保江

オーストラリア学会第24回全国研究大会が6月8日・9日の2日間にわたり、名古屋商科大学日進キャンパスで開催されました。名古屋の郊外に位置する自然豊かな美しいキャンパスでの充実した2日間でした。

大会1日目は、オーストラリア大使館のTom Connor 主席公使からのご挨拶をいただき、東京大学客員教授（当時）、James Cook Universityの准教授であるJustin Dabner先生には環境問題と税法についての基調講演をいただきました。その後、シンポジウムⅠでは「政治、ビジネス、社会におけるオーストラリア女性」について興味深い報告と討論が展開されました。2日目の午前中は、一般個別研究報告が2つの分科会において開催され、計7つの報告がありました。いずれのセッションも活発な意見交換が行われました。午後のシンポジウムⅡでは、オーストラリアが先陣を切って実施するグローバル人材育成のための多様な教育機関のプログラムがパネリストより紹介されました。各報告は大変刺激的なもので、多くの質問も寄せられ、有意義な時間となりました。今大会では名古屋商科大学の鎌田前理事をはじめ、大学のスタッフの皆様にご尽力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今回の大会を開催するにあたり、豪日交流基金から助成を、また在日オーストラリア大使館から後援をいただきました。厚くお礼を申し上げます。また在福岡総領事館のTom Yates 総領事には、2日目のシンポジウムにパネリストとしてご報告をいただき、多大な貢献をいただきました。感謝申し上げます。

「第25回 全国研究大会に向けて」

第8期代表理事 有満保江

2013年の6月をもちまして、私はオーストラリア学会の第8期代表理事としての任期を無事に終えることができました。任期中は理事の方々をはじめ会員の皆様に、さまざまな形でご協力をいただき、心より感謝いたしております。またこの間、新会則の制定やそれに伴う理事会メンバーの再編成が行われました。今後は新しい代表理事、理事のもとで、オーストラリア学会がさらに発展を遂げていくことを切に願っております。

2014年は学会創立25周年を迎えます。すでに「お知らせ」が配信されていると思いますが、記念事業のひとつとして当学会では初めての国際学会の開催を予定しております。学会での一般発表の公募はこれまでどおり行われますが、すべて英語による発表形式となります。会員の皆様の積極的な参加を期待いたしております。

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会2014年度総会・全国研究大会は、7月26日（土）27日（日）の両日に、上智大学で開催される予定です。（詳細は会報次号[2月発行予定]でお知らせいたします。）なお、2014年度大会は、学会創立25周年記念事業の国際学会として開催予定ですので、すべて英語での発表形式となります。

学会での発表を希望される会員は、所定の申込用紙に必要事項を記入し、11月末日までに指定の宛先にお申し込みください。詳細については学会ホームページをご参照ください。

<<http://www.australianstudies.jp/>>

「新代表理事挨拶」

第9期代表理事 福嶋輝彦

この度オーストラリア学会の代表理事に就任いたしました、防衛大学の福嶋輝彦です。昨年の新会則施行後初めての役員改選に伴い、その規定に従い多くの経験豊富な理事の先生方が抜けられました。新たに立ち上げられた第9期理事会では、学会歴が一番長いのが私ということになり、この要職をお引き受けすることにいたしました。新会則は、学会執行部は常に新陳代謝を図っていかねばならない、という精神を反映したものと理解しております。それは、自由と平等の伝統を守りながら、多文化社会を作り上げた移民国家オーストラリアの研究を会員間で共有する学会として、きわめて健全なことであると思います。であれば、私はこうして始まった新しい流れのつなぎ役に徹したいと考えております。

その新しい流れの一環として、オーストラリア学会優秀論文賞を立ち上げることを計画しています。学会員によって投稿され、『オーストラリア研究』の27号・28号に掲載された、日本語・英語の優秀論文を表彰するという趣旨ですので、会員の皆様方には奮って投稿の準備をお願いいたします。こうした新たな試みは、来年の学会創立25周年記念行事と併せて、オーストラリア学会がレベルの高い研究を世界に発信していくことを意図しており、私はそのサポートに全力を尽くします。

一方で、オーストラリア学会には、オーストラリアに関することなら自分の専門分野でなくとも、聴講し議論に参加するマルチ・ディシプリナリーという創立以来の精神も脈々と流れています。代表理事として、こうした伝統もしっかりと引き継いで、開放的で活発な学会として一層発展させていきたいと思っておりますので、会員の皆様方もよろしくご協力をお願いいたします。最後に、有満保江前代表理事を始め、今回の新たな流れを導かれた、第8期でご退任の役員の方々に、そのご尽力に対し心よりお礼申し上げます。

1. オーストラリア学会 2013 年度総会報告

2012 年度総会・全国研究大会は6月8日（土）、9日（日）の両日、愛知県日進市の名古屋商科大学（日進キャンパス）において開催されました。名古屋商科大学の鎌田真弓会員はじめスタッフの皆様方には多大なるご尽力を賜りました。また大会運営については豪日交流基金から助成を受けました。誠にありがとうございます。

総会は6月9日（日）13時15分から13時50分まで、CGC棟（3F 7303）で開かれ、有満代表理事からの挨拶ののち、以下の議事について承認されました。（第8期第7回理事会報告を参照）

1. 2012 年度一般会務報告
2. 2013 年度活動計画および学会創立 25 周年記念事業について
 - ① 会報の発行(第 69, 70, 71 号)
 - ② 学会誌の発行 (『オーストラリア研究』第 27 号)
 - ③ 第 24 回全国研究大会の開催(名古屋商科大学)
 - ④ 地域研究会（関東例会及び関西例会）の開催
 - ⑤ HP/メルマガの活用
 - ⑥ 学会創立 25 周年記念事業として、a. 学会誌掲載論文を対象とした学会奨励賞制度（仮）を 2015 年度に新設する、b. 2014 年度全国大会を 25 周年記念大会として上智大学において 2014 年 7 月に実施する。
 - ⑦ 2013 年度、2014 年度の AJF 事業について
3. 2012 年度決算案・監査報告
4. 2013 年度予算案
5. 第9期理事・監事候補について、有満代表理事より選考過程の説明と提案があり、候補者全員が承認され、その場で紹介された。選出理事による代表理事の互選のため中断を挟み、再開総会にて、第9期代表理事として選出された福嶋輝彦新代表理事よりあいさつがあった。

オーストラリア学会第9期理事・監事

理事：青木麻衣子（北海道大学）、福嶋輝彦（防衛大学校）、花井清人（成城大学）、飯笹佐代子（東北文化学園大学）、石井由香（静岡県立大学）、川口章（同志社大学）、

栗山直子（追手門学院大学）、馬渕仁（大阪女学院大学）、三宅眞理（関西医科大学）、村上雄一（福島大学）、永野隆行（獨協大学）、岡本哲明（別府大学）、佐和田敬司（早稲田大学）、塩原良和（慶應義塾大学）、安田純子（郡山女子大学）、吉田道代（摂南大学）、
監事：白江英司（日経映像）、多田稔（近畿大学）

(ABC 順)

2. オーストラリア学会第 8 期第 7 回理事会報告

日 時 2013 年 6 月 8 日（土） 10:00～12:30

場 所 名古屋商科大学日進キャンパス IS ビル会議室

【報告・審議事項】

1. 小林理事から、2012 年 12 月～2013 年 5 月の一般会務報告があった。2012 年度末（2013 年 3 月 31 日現在）会員数 一般会員=201 名、賛助会員=1 団体、学生会員=12 名。
2. 有満代表理事から、運営委員会（2012 年 12 月 26 日及び 2013 年 5 月 4 日開催）の概要報告があり、第 9 期理事会には新理事会の選出方法について「申し合わせ事項」あるいは「細則」などをあらかじめ決めておくよう申し送りされた。また ACNet 事務局から国際文献社への業務委託については、概ねこれまでの委託業務と同じ範囲で委託を行うが、3 か年を目途に見直すことを次期理事会に申し送りされた。新たに会員が自身の身上を記録できるマイページが設置されることになった。
3. 有満代表理事から公益法人化について資料に基づき説明があり、審議の結果、法人格への移行は行わないが、会計（個人名）についてはリスクを負うこともある点について 9 期理事会の検討課題とした。
4. 安田編集担当理事から、学会誌 25 号の発行報告及び第 26 号編集、発行について報告があり、第 9 期に編集発行委託先の検討が付託された。

【議 題】

1. 第 6 回理事会議事録（既に回覧承認済み）を承認した。
2. 有満代表理事から 2014 年全国大会ならびに 25 周年記念事業について、概要説明があり、①2014 年度大会を記念事業として位置づけ、国際大会の実施と予算措置（AJF への申請、②若手奨励のための賞の設置（2015 年度から）が提案され、規定案、細則案などの審議の結果、一部修正のうえ承認された。
3. 第 8 期に置かれた記念事業検討委員会は第 9 期に理事会に引き継ぎ、記念事業実行委員会を設置することが承認された。
4. 永野企画担当理事から 2012/13 年及び 2013/14 AJF 助成事業について説明があり、承認された。
5. 川口会計担当理事から、2012 年度決算報告案の説明があり、谷内監事からの監査報告を経て承認された。
6. 川口会計担当理事から 2013 年度予算案が示され、大会助成金（10 万から 15 万円へ 12 年度第 5 回理事会承認済み）、25 周年記念事業積立、業務委託経費などについて質疑があったのち、原案どおり承認された。
7. 有満代表理事から、理事会決定・申し合わせ事項の確認・追加があり、了承された。
8. その他 入会者 2 名（回覧承認済み）、退会者 8 名（うちみなし退会 2 名）、入会取り消し 1 名が承認された。

出席者＝有満保江（代表理事）、飯笹佐代子、加賀爪優、鎌田真弓、川口章、小林信一、塩原良和、田澤佳昭、永野隆行、福嶋輝彦、松繁寿和、南出真助、安田純子（以上理事、50 音順）、関根政美、谷内達（以上監事）、委任状 4 名。

3. オーストラリア学会第 9 期第 1 回理事会報告

日 時 2013 年 6 月 9 日（日） 12:30～13:00、13:35～45、13:50～14:00

場 所 名古屋商科大学 日進キャンパス IS ビル会議室

出席者＝青木麻衣子、福嶋輝彦、花井清人、飯笹佐代子、石井由香、川口章、栗山直子、馬渕仁、三宅眞理、村上雄一、永野隆行、岡本哲明、佐和田敬司、塩原良和、安田純子、吉田道代（以上、理事、ABC 順）、白江英司、多田稔（以上監事）有満保江（第 8 期代表理事、12:30～13:00 のみ出席）

【議 題】

1. 第9期の代表理事、副代表理事、会計担当理事として、下記の者を選出した。以下の役員一覧を参照。

| 2013年6月～2016年6月 役員一覧 | |
|----------------------------|--------------------------|
| [代表理事]福嶋輝彦 | [関東例会担当理事]花井清人、佐和田敬司 |
| [副代表理事(総務)]川口章 | [関西例会担当理事]栗山直子、吉田道代 |
| [会計担当理事]塩原良和 | [副代表理事(編集)]飯笹佐代子 |
| [広報・会報担当理事]村上雄一 | [学会誌担当理事]安田純子、岡本哲明、青木麻衣子 |
| [副代表理事(企画)]永野隆行 | [HP担当理事]川口章、石井由香 |
| [全国研究大会担当理事]村上雄一 | [監事]白江英司、多田稔 |
| [プロジェクト担当理事]佐和田敬司、馬淵仁、三宅眞理 | [本部事務局員関東部会担当]山内由理子 |
| | [本部事務局員会報・全国研究大会担当]濱野健 |

4. オーストラリア学会財務諸表

貸借対照表
(平成25年3月31日現在)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| I. 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金 | 0 | 0 | 0 |
| 郵便貯金口座 | 3,781,060 | 2,723,083 | 1,057,977 |
| 郵便振替口座 | 33,680 | 333,590 | △ 299,910 |
| 未収金 | 0 | 0 | 0 |
| 流動資産合計 | 3,814,740 | 3,056,673 | 758,067 |
| 資産合計 | 3,814,740 | 3,056,673 | 758,067 |
| II. 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 前受会費収入 | 21,000 | 26,000 | △ 5,000 |
| 未払金 | 398,350 | 9,920 | 388,430 |
| 流動負債合計 | 419,350 | 35,920 | 383,430 |
| 負債の部合計 | 419,350 | 35,920 | 383,430 |
| III. 正味財産の部 | | | |
| 1. 一般正味財産 | 3,395,390 | 3,020,753 | 374,637 |
| 正味財産合計 | 3,395,390 | 3,020,753 | 374,637 |
| 負債及び正味財産合計 | 3,814,740 | 3,056,673 | 758,067 |

(発生ベース)

キャッシュ・フロー計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-----------------------|-----------|-----------|-----------|
| I. 事業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | |
| ①基本財産運用収入 | | | |
| 受取利息 | 666 | 795 | △ 129 |
| ②会費収入 | 1,609,000 | 1,709,000 | △ 100,000 |
| ③雑誌販売収入 | 96,136 | 55,730 | 40,406 |
| ④前受会費収入の減少 | △ 5,000 | 12,000 | △ 17,000 |
| ⑤未払金の増加 | 388,430 | △ 239,949 | 628,379 |
| ⑥過年度未記帳分 | 0 | 0 | 0 |
| 事業活動収入計 | 2,089,232 | 1,537,576 | 551,656 |
| 2. 事業活動支出 | | | |
| ①事業費 | | | |
| 大会及び研究会旅費補助等 | 0 | 100,000 | △ 100,000 |
| 特別会計繰出金 | 0 | 4,600 | △ 4,600 |
| 25周年記念事業積立金 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| 調査事業費 | 0 | 0 | 0 |
| 事業費計 | 300,000 | 104,600 | 195,400 |
| ②管理費 | | | |
| 印刷費 | 464,175 | 384,915 | 79,260 |
| 会議費 | 115,070 | 64,655 | 50,415 |
| 消耗品費 | 0 | 0 | 0 |
| 通信費 | 53,920 | 45,748 | 8,172 |
| 謝金 | 20,000 | 15,000 | 5,000 |
| 業務委託費 | 378,000 | 378,000 | 0 |
| 雑費 | 0 | 5,000 | △ 5,000 |
| 管理費計 | 1,031,165 | 893,318 | 137,847 |
| 事業活動支出計 | 1,331,165 | 997,918 | 333,247 |
| 事業活動によるキャッシュ・フロー | 758,067 | 539,658 | 218,409 |
| II. 投資活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | 0 |
| III. 財務活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | 0 |
| IV. 現金及び現金同等物の増減額 | 758,067 | 539,658 | 218,409 |
| V. 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,056,673 | 2,517,015 | 539,658 |
| VI. 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,814,740 | 3,056,673 | 758,067 |

(現金ベース)

正味財産増減計算表
(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| ①基本財産運用益 | 666 | 795 | △ 129 |
| ②受取会費 | 1,609,000 | 1,709,000 | △ 100,000 |
| ③雑誌販売収入 | 96,136 | 55,730 | 40,406 |
| ④未収金 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤過年度未記帳分 | 0 | 0 | 0 |
| 経常収益計 | 1,705,802 | 1,765,525 | △ 59,723 |
| (2) 経常費用 | | | |
| ①事業費 | | | |
| 大会及び研究会旅費補助等 | 0 | 100,000 | △ 100,000 |
| 特別会計繰出金 | 0 | 4,600 | △ 4,600 |
| 25周年記念事業積立金 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| 調査事業費 | 0 | 0 | 0 |
| 事業費計 | 300,000 | 104,600 | 195,400 |
| ②管理費 | | | |
| 印刷費 | 464,175 | 384,915 | 79,260 |
| 会議費 | 115,070 | 64,655 | 50,415 |
| 消耗品費 | 0 | 0 | 0 |
| 通信費 | 53,920 | 45,748 | 8,172 |
| 謝金 | 20,000 | 15,000 | 5,000 |
| 業務委託費 | 378,000 | 378,000 | 0 |
| 雑費 | 0 | 5,000 | △ 5,000 |
| 管理費計 | 1,031,165 | 893,318 | 137,847 |
| 経常費用計 | 1,331,165 | 997,918 | 333,247 |
| 当期経常増減額 | 374,637 | 767,607 | △ 392,970 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 374,637 | 767,607 | △ 392,970 |
| 一般正味財産期首残高 | 3,020,753 | 2,253,146 | 767,607 |
| 一般正味財産期末残高 | 3,395,390 | 3,020,753 | 374,637 |
| II. 正味財産期末残高 | 3,395,390 | 3,020,753 | 374,637 |

(発生ベース)

収支決算書
(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| I. 事業活動収支の部 | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | |
| ①基本財産運用益 | 1,000 | 666 | 334 |
| ②受取会費 | 1,650,000 | 1,609,000 | 41,000 |
| ③雑誌販売収入 | 20,000 | 96,136 | △ 76,136 |
| ④その他 | | 0 | 0 |
| 経常収益計 | 1,671,000 | 1,705,802 | △ 34,802 |
| 2. 事業活動支出 | | | |
| ①事業費 | | | |
| 大会及び研究会旅費補助等 | 200,000 | 0 | 200,000 |
| 特別会計繰出金 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 25周年記念事業積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 事業支出計 | 600,000 | 300,000 | 300,000 |
| ②管理費 | | | |
| 印刷費 | 450,000 | 464,175 | △ 14,175 |
| 会議費 | 100,000 | 115,070 | △ 15,070 |
| 消耗品費 | 20,000 | 0 | 20,000 |
| 通信費 | 50,000 | 53,920 | △ 3,920 |
| 謝金 | 15,000 | 20,000 | △ 5,000 |
| 業務委託費 | 378,000 | 378,000 | 0 |
| 雑費 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 管理支出計 | 1,023,000 | 1,031,165 | △ 8,165 |
| 事業活動支出計 | 1,623,000 | 1,331,165 | 291,835 |
| 事業活動収支差額 | 48,000 | 374,637 | △ 326,637 |
| II. 投資活動収支の部 | 0 | 0 | 0 |
| III. 財務活動収支の部 | 0 | 0 | 0 |
| IV. 予備費支出の部 | | | |
| 当期収支差額 | 48,000 | 374,637 | △ 326,637 |
| 前期繰越収支差額 | 3,020,753 | 3,020,753 | 0 |
| 次期繰越収支差額 | 3,068,753 | 3,395,390 | △ 326,637 |

(発生ベース)

特別会計

豪日交流基金助成事業特別会計

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

| 収入 | | 円 |
|-------------------|-----------|-----------|
| 助成金[DFAT2011]残高繰越 | 172,589 | |
| 助成金[DFAT2012] | 1,889,645 | |
| 一般会計繰入金 | 208 | |
| 利息 | 72 | |
| | | 2,062,514 |
| 支出 | | |
| DFAT2010 | | |
| 通訳他・人件費 | 52,500 | |
| 交通費・宿泊費 | 41,800 | |
| 事業運営経費 | 78,289 | |
| DFAT2012 | | |
| 通訳他・人件費 | 1,021,503 | |
| 交通費・宿泊費 | 556,601 | |
| 事業運営経費 | 130,000 | |
| 広報費 | 2,200 | |
| 印刷費 | 175,000 | |
| 緊急費 | 4,621 | |
| | | 2,062,514 |
| 収支差額 | | 0 |

(発生かつ現金ベース)

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 会計処理の基準

平成15年3月に公益法人会計基準検討会から公益法人会計基準が公表されたことにより、オーストラリア学会においても平成18年3月年度から、公益法人会計基準に準拠した会計報告をすることとしている。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

(3) 未収会費の評価

未収会費については、決算期以降かつ財務諸表作成時以前に回収されたものについてのみ資産に計上するものとする。

財産目録

財産目録は、貸借対照表の資産の部と同一であるために作成は省略した。

監査報告書

1ページから4ページまでの財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

平成25年 6月 日

谷内 達 ㊞

関根 政美 ㊞

オーストラリア学会2013年度収支予算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

| 科目 | 予算額 | 前年度予算額 | 差額 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| I. 事業活動収支の部 | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | |
| ①基本財産運用益 | 1,000 | 1,000 | 0 |
| ②受取会費・入会金 | 1,650,000 | 1,650,000 | 0 |
| ③雑誌販売収入 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| ④その他 | 0 | 0 | 0 |
| 経常収益計 | 1,671,000 | 1,671,000 | 0 |
| 2. 事業活動支出 | | | |
| ①事業費 | | | |
| 大会及び研究会旅費補助等 | 100,000 | 200,000 | △ 100,000 |
| 特別会計繰出金 | 150,000 | 100,000 | 50,000 |
| 25周年記念事業積立金 | 200,000 | 300,000 | △ 100,000 |
| 事業支出計 | 450,000 | 600,000 | △ 150,000 |
| ②管理費 | | | |
| 印刷費 | 350,000 | 450,000 | △ 100,000 |
| 会議費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 消耗品費 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| 通信費 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 謝金 | 15,000 | 15,000 | 0 |
| 業務委託費 | 650,000 | 378,000 | 272,000 |
| 雑費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 管理支出計 | 1,195,000 | 1,023,000 | 172,000 |
| 事業活動支出計 | 1,645,000 | 1,623,000 | 22,000 |
| 事業活動収支差額 | 26,000 | 48,000 | △ 22,000 |
| II. 投資活動収支の部 | | | |
| | 0 | 0 | 0 |
| III. 財務活動収支の部 | | | |
| | 0 | 0 | 0 |
| IV. 予備費支出の部 | | | |
| | 0 | 0 | 0 |
| 当期収支差額 | 26,000 | 48,000 | △ 22,000 |
| 前期繰越収支差額 | 3,395,390 | 3,020,753 | 374,637 |
| 次期繰越収支差額 | 3,421,390 | 3,068,753 | 352,637 |

オーストラリア学会2013年度創立25周年記念事業特別会計収支予算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

| 収入 | | 円 | |
|-------------|---------|---|----------|
| 前期残高繰越 | 300,000 | | |
| 積立金 | 200,000 | | |
| | | 計 | 500,000 |
| 支出 | | | |
| 会議費 | 50,000 | | |
| 印刷費 | 5,000 | | |
| 通信費 | 5,000 | | |
| 残高繰越 | 440,000 | | |
| | | 計 | 500,000 |
| 収支差額 | | | 0 |

5. オーストラリア学会第17回地域研究会(関西例会)のお知らせ

*** 事前申し込み不要、非会員の方も参加できます。**

日 時：2013年11月16日(土) 14:00~17:00

場 所：追手門学院大学 5号館8階大会議室

連絡先：追手門学院大学 オーストラリア研究所(大阪府茨木市西安威2-1-15)

TEL: 072-641-9667 FAX: 072-643-9476 Email: cas@office.otemon.ac.jp

ホームページ: <http://www.otemon.ac.jp/cas/>

交 通：JR茨木駅西口から南へ徒歩7分「イオン茨木ショッピングセンター」横、

または阪急茨木市駅西口から追手門学院スクールバス 13:30 発をご利用下さい。

座長：馬淵仁（大阪女学院大学）、大野あきこ（甲南女子大学・非）

発表①「シドニー・ブリスベン在住日本人の言語状況について一言語シフト・維持の観点からの検証」 武井紀子（大阪大学・院）

オーストラリアにおける近年の言語シフトと維持に関する研究(Clyne2003)では、他のアジア諸国民族グループと比較し日本人の言語シフト率が高いことが指摘されている。その要因として日本人女性の国際結婚が挙げられている。本発表では、在住日本人の言語状況を一言語シフト・維持の観点から、シドニー在住の日本人を対象に行った日本語と英語の言語使用域等に関する自記式の調査票調査の結果とシドニーおよびブリスベンに在住する日本人を対象に行った言語生活に関する調査票調査を基に検証した結果を報告する。

発表②「アボリジニの飲酒への対応の変容—オーストラリア北部準州の飲酒問題に関する新聞記事から」 平野智佳子（神戸大学・院）

本発表の目的は、北部準州におけるアボリジニの飲酒問題の実相解明にむけた道筋を示すことである。2007年、北部準州では介入政策が発表され、アボリジニへの飲酒規制が約40年ぶりに再開された。アボリジニの悲惨な飲酒状況や連邦政府の強制介入から、これまで研究者の関心は「アボリジニ」「白人」の非対称的な権力関係に注がれてきた。この視角は、隠蔽された植民地主義を明示する点で成果があった。しかし一方で、アボリジニ社会に存在する飲酒への複数の意見や対応の変化を見逃してきた。そこで、これまでのマクロな次元での読み解きを一旦解除し、飲酒問題に直面するアボリジニの人々が織りなす営みをミクロな次元で読み解くことを検討したい。

6. 第8回地域研究会（関東例会）のお知らせ

*** 事前申し込み不要、非会員の方も参加できます。**

日時：2014年1月25日（土）14時～17時

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 8号館 310教室 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩5分 <http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

共催：早稲田大学オーストラリア研究所 連絡先：佐和田敬司（早稲田大学）ksawada@waseda.jp

コメンテータ：井上浩子（日本学術振興会特別研究員 PD）

報告①：「人間の安全保障アジェンダ：オーストラリアと日本」 秋元大輔（創価大学）

要旨：当研究では、人間の安全保障アジェンダについて、豪日関係の視点から考察する。今日まで、オーストラリアと日本は、カンボジア、東ティモール、イラクにおける平和構築において協力し、現地の人々の人間の安全保障へと貢献してきた。その他の人間の安全保障アジェンダにおいては、核不拡散・核軍縮に関する豪日イニシアティブが挙げられる。これらの事例を踏まえ、本研究は、人間の安全保障アジェンダに関する豪日協力の可能性と限界を明らかにする。最後に、3・11後の豪日関係における、人間の安全保障政策の重要性を指摘し結論とする。

報告②：「自由と放置のはざま—オーストラリアの難民申請者政策における「コミュニティ・ベース」アプローチと新自由主義」 塩原良和（慶應義塾大学）

要旨：2000年代以降のオーストラリアのエスニック・マイノリティ向け社会政策において、政策的効率性を高めるための「改革」の一環として行政が人々の生活に空間的に介入する傾向が強まっている。本報告では2007年?2013年の労働党政権下の難民申請者政策における、Community DetentionやBridging Visa Eの拡大といった「コミュニティ・ベース」アプローチを政策・イデオロギーの両面から分析することで、新自由主義的「改革」による空間的介入がエスニック・マイノリティにもたらす影響を明らかにする。それにより、リベラリズムの見地からは容認されがちなエスニック・マイノリティの「コミュニティへの解放」が、「コミュニティへの放置」へと転化するという問題を提起する。

7. AJF 事業活動(2010年度) 公開講演会 報告

Rick Wallace(The Australian 東京特派員)「オーストラリア人記者がみた東日本大震災」

2012年11月21日（水）18時-20時 上智大学（四谷キャンパス）12号館301教室

ウォーレス氏は、震災直後から被災各地を何度も訪問しており、未曾有の自然災害そして原発事故に見舞われた日本をつぶさに見、そしてその模様を本国オーストラリアに伝えてきた。同氏は震災を通じて何を感じ、そして何を読者に伝えようとしたのか。外国人記者として震災前後の日本（人）に何らかの変化を見出しているのか、将来のエネルギー政策を巡る国内の混乱をどう見ているのか、など詳しくお話いただいた。さらに、震災におけるメデ

ィアの役割について、その可能性と限界についても言及があった。講演は英語で逐次通訳付きで行なわれ、活発な質疑応答があった。

当日は、ダラ・ウィリアムズ政務担当公使もおいでになり、オーストラリアの復興支援についてお話もされました。出席者は15名。

8. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2013年5月に年会費を納入しても、2012年度未払いの場合、それは2012年度の会費となります。すなわち、2013年度は未納ということとなります。また2011、2012年度未払いの場合、2011年度分の会費納入になります。

＜2012年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2011年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2013年3月発行、第26号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

9. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

重要！『オーストラリア研究』27号の原稿締切を、11月5日に延長します。下記のとおり、「オーストラリア学会優秀論文賞」の創設に当たり、なるべく多くの会員から投稿を募るためです。投稿を希望する会員は、早めに編集担当理事・飯笹 (sayokoiiz@gmail.com) までご連絡ください。投稿に関する詳細は、学会ウェブサイト、もしくは26号掲載の「投稿要領」（2011年12月11日一部改訂）を参照してください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2013年10月30日（期日厳守）。編集作業の都合上、電子メール（またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB）をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

「オーストラリア学会優秀論文賞」の創設

このたび、顕彰事業として標記が創設されることになりました。第一回は『オーストラリア研究』の27号・28号に学会員によって投稿・掲載された日本語・英語の論文から優秀論文を選定し、表彰する予定です。会員の皆様方には奮って投稿をお願いいたします。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当 TEL：03-5937-0249, FAX：03-3368-2822 email：asaj-post@bunken.co.jp
※2013年4月以降変更になりましたのでご注意ください。

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当
TEL：03-5937-0249 FAX：03-3368-2822 Email：asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付
TEL：075-251-3469 E-mail：akawaguc@mail.doshisha.ac.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。[編集担当：村上雄一（福島大学）／濱野健（北九州市立大学）]